

第11回 八尾市地域公共交通会議 会議録

日時：令和4年5月19日（木）15：00～

場所：八尾市水道局 4階 大会議室

■次第

1. 開会

- (1) 委嘱状の交付
- (2) 各委員の紹介

2. 協議事項

- (1) 八尾市地域公共交通計画に基づく重点施策の実績報告について

3. 閉会

■会議録

1. 開会

- (1)委嘱状の交付
- (2)各委員の紹介

会長：

改めまして、大阪産業大学の波床です。今日は第 12 回の会議ということで、昨年度にご議論いただいたことに基づいて、実際に公共交通計画が動いています。その報告が主な議題になっていますので、ご意見等ありましたら、よろしくお願いします。

2. 協議事項

- (1) 八尾市地域公共交通計画に基づく重点施策の実績報告について

<事務局より、資料4をもとに説明>

会長：

説明、ありがとうございました。今の説明に関しまして、ご質問等がありましたら、どなたでも結構ですので、ご発言いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。ないでしょうか。では私から 1 点お伺いしたいのですが、別紙 2 にある、おでかけ支援バスの「きずな」ですが、普段はどのくらいの空席があるのでしょうか。

事務局：

基本的にイベントがあるときは満席の状態と聞いています。コロナ禍でイベントもないので、空いている席は利用して頂いてもよい。イベントのない時は、だいたい10席程は空いている状態です。

会長：

たこち号の別紙1は5月発行とありますが、すでに皆様の手元にいつているのですかね。この会議が終わってから、地域に配布するのでしょうか。

事務局：

たこち号のパンフレットにつきましては、すでに今週の初めの方で各家庭に配布が終了しています。

会長：

そうすると、会議では地元の雰囲気はつかめているのですが、その他に地元から意見はありますか。新たなルートをお知らせしてからの意見について心配しています。

事務局：

新たな運行計画のパンフレットを配布してからのご意見は、いまのところ頂いていない状況です。

会長：

どうもありがとうございました。資料5の説明に移ってもよろしいでしょうか。それでは、事務局より資料5の説明をお願いします。

<事務局より、資料5をもとに説明>

会長：

スケジュールの見通しについては説明があったとおりでございます。何か意見はございますでしょうか。あつというまに終わってしまいそうですが。資料4の現状報告と資料5のスケジュールについて何かございませんか。

副会長：

事業者の方にお聞きしたいのですが、この公共交通計画を作成する際にいろいろ

ろご議論いただく中で、利用人数のところをどう表現するかというところを特にご議論いただいたと思います。その中で、なかなか、このコロナ禍で難しいとはわかってるのですが、目標値として新型コロナウイルス流行前の水準への回復をめざすということで標記させていただきまして、結果、今回の資料 4 をみれば、令和 2 年と令和 3 年は、ほぼ横ばいぐらいということで良いと思うのですが、令和 4 年度に入り、まだ 2 ヶ月も経っていないのですが、ゴールデンウィークの状況を踏まえ、何か情報提供いただければありがたいと思うのですが。

会長：

それでは、反時計回りにいきましょうか。数字は無理だと思うので、感想でも結構です。

委員：

近鉄です。ゴールデンウィークという話があったんですが、当社におきましては、令和 4 年度になってからですね。やっぱり 4 月になってから、3 年前に比べて 10%~20%減というところまで戻ってきてはいるんですけど、やはり、コロナの状況の中で、働き方改革であったり、テレワークというところから 100%元に戻るとい状況ではないと考えています。

委員：

JR 西日本です。八尾市だと 3 駅になるんですけど、弊社は運行エリアが広いものでして、特に新幹線であれば福岡や金沢まで広いエリアを運行しておりまして、新幹線で言いますと、4 月ぐらいで 5 割。2019 年コロナ禍前の 55%ぐらい。京阪神のこの辺の地域で 8 割ぐらいというところでございます。かなり数字的にまだ全然戻ってきていない状況だと思っています。弊社としても民間企業ではございますが、公共交通というところもありますので、特にローカル線の部分につきましては、地元の方と協議を進めているところでありますが、八尾市に限って言いますと、そこまで具体的な話にはならないかなと思いますが、まだまだ鉄道のご利用は戻っていない状況です。

委員：

大阪メトロです。まずゴールデンウィークにつきましては、報道等でも出ている通り、昨年度よりはかなり回復している状況でございます。一方で 2019 年度コロナ前と比べると、まだまだ 8 割程度ぐらいというところで、まだまだ回復には至っていないのかと、事業者としての感覚では持っています。平時につきましては、3 月のまん延防止措置の解除を受けて、利用者数も徐々に回復してきてお

るという状況で、このまま感染拡大がなければ事業者にとっていい方向に進むのではないかと思っているのですが、コロナ前に戻るのは、楽観的な考えなのかなというのが正直なところです。弊社におきましては、八尾南1駅なのですが、こちらについても同様の傾向が出ているという事ですので、引き続き需要が戻ってくるようにやってきたいと思っています。

委員：

近鉄バスです。我々バス会社ということで、路線バス事業の方は、今年度に入ってから、だいたい平日でコロナ前の85%程。土休日で75%程ということで、どこの会社とだいたい一緒だと思うのですが、100%の回復は見込めないかなというところがございます。また路線バス以外では、高速バスの方も、東北から九州まで毎日運行させていただいておりますが、ゴールデンウィークの結果で、率直に申し上げてコロナ前の6割程。長距離の路線に比べると地元の路線の方が回復傾向にあるのかなというところではあります。

委員：

タクシーでは、全国的な統計で一応2019年のコロナの影響を受けていない年の月別対比を統計的にとっているのですが、令和4年4月の営業収益でみて、だいたい76.6%ぐらいの数字があがってきている。見ていると、大阪の場合、去年の緊急事態宣言やまん延防止措置を取られた日がざっと230日くらい。タクシーの場合、緊急事態宣言やまん延防止の期間はどっとさがる。これの繰り返し。いまのところ、措置をとられる様子はなさそうですので、利用が上がっていく事を期待しているのですが、タクシーの場合は、夜の需要が、やはり飲み屋とかが早く閉まると、需要が新しい生活様式になってしまうとコロナ前まで戻るといったことはしないのではないかと思います。何か新たな活性化策を打ち出していないといけないと感じている。

会長：

ありがとうございます。お客さんがなかなか戻らないので、コロナが去っても元に戻らないのでは。という意見が多かったです。大阪とか大都市ではわかりませんが、地方都市で人口が減少しているようなところは、交通事業者と行政が協力して何か便利にする策を行って、ジリジリお客さんを増やしているところもなくはないです。完全に戻らなくても、そういう策で戻す取り組みはできるんじゃないかと思うので、事業者の皆様もよろしくお願いします。他はいかがでしょうか。

委員：

先ほど、たこち号についてご紹介いただいた中で、可能であれば教えて頂きたいのですが、利用数の推移がどの程度になっているか。例えば1日あたりの利用者数、実証運行開始以降どのように伸びているか等を、可能な範囲でご教授いただけますでしょうか。

事務局：

たこち号の運行状況ですが、令和3年2月から運行を始めまして、1年間で実際にご乗車いただいた方は422人。月平均30～40人ほどの推移。先ほど各事業者さんから乗車人数のご報告の時にもありましたとおり、たこち号も同様に緊急事態宣言やまん延防止措置が出ている期間は、利用が少なく、解除になったときに利用が増えている状況。令和4年4月末までの利用人数は560人となっていて、徐々に利用人数も増えています。今後6月から運行ルートを見直しする中で、地域への啓発を行い、利用がさらに広がるように我々は努めていきたいと思っています。

会長：

どうもありがとうございます。今の状況をお聞きになって、交通事業者の方は、1路線が1日の人数ですか。とを感じるでしょうが、年間の人数です。数を運ぶというよりは、不便地の最後の砦という感じです。他はいかがでしょうか。特に無いようなので、今日はこれぐらいにしたいと思います。次回の7月の会議は議案が多いのでよろしくお願いします。そうしましたら私の進行はここまでにして、事務局にお返しいたします。

4. 閉会

事務局：

ありがとうございました。次回の会議の開催予定ですが、令和4年7月の開催を予定しております。 次回の内容については、交通不便地における新たな公共交通制度設計と、地方創生臨時交付金を活用した八尾市おでかけ応援事業について協議をさせていただきます。招集させていただく委員につきましては、資料2「八尾市地域公共交通会議要綱」別表の右側「各地域の運行計画」の欄に、丸印が表記されている方となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

以上